

令和6年8月20日

崇化館地域会議
会長 戸田 博基 様

豊田市長 太田 稔彦

検討結果報告書

地方自治法（昭和22年法律第67号）第202条の7第2項の規定に基づき諮問し、答申を受けたことについて、下記のとおり報告します。

記

- 1 報告事項 令和5年12月19日に崇化館地域会議から受けた「『(仮称)ミライ構想』のめざす姿やまちづくりの基本的な考え方、都市構造」に関する答申についての検討結果は別紙のとおり
- 2 主管課名 企画政策部 企画課、都市計画課

崇化館地域会議からの答申に対する検討結果

1	答申内容	【(仮称)ミライ構想の方向性(素案) めざす姿】 妥当と考える。 □未来を予測することが困難な時代にあって、多様性やSDGs等の新たな価値観や考え方を受容しながら、必要に応じて変化してまちづくりを未来へ進めていくことが必要であり、それがイメージできるものとなっている。 □崇化館地域においては、住民の多さに加え中心市街地を抱える地域らしく、出身地、世代等において、個々の背景も様々であるがゆえに、つながりが重要と考える。 □現状の地域力の高さをそのままに、地域住民どうしの「つながり」や「話し合い」を基に「学び合う」といったような、能動的なアクションが重要と考えている。 □つながりは、下町おかみさんの会の活動をはじめとした崇化館地域の活動にも通じる。また、拳母祭りも子どもを起点に地域のつながりが広がっていると感じている。 □ただし、「深化」という言葉については、意味が伝わりにくいため、別の表現を考えることも良いかもしれない。
	市の考え	ご意見のとおり、「つながり」については、多様な「人と人」「世代と世代」「人と地域、自然」とのつながりを通じた「気づき合い」「認め合い」「学び合い」が重要と考え、「(仮称)ミライ構想」に掲げています。 また、まちづくりの基本的な考え方に、「見方を『変える』」「思考を『変える』」「行動を『変える』」の3つの『変える』を掲げており、これまでの在り方を当たり前とせず、常に考え方を柔軟に変えていくとともに、一人ひとりが主体的に挑戦や行動に一步踏み出せる環境づくりを目指すことが必要であると考えており、「(仮称)ミライ構想」の本文に記載させていただいております。 なお、「深化」については、これまで積み上げてきたものをさらに深めたいため「深化」という表現をしています。全体を通じて市民の皆様が理解しやすい説明や表現を工夫していきます。

2	答申内容	【(仮称) ミライ構想の方向性(素案) まちづくりの基本的な考え方】 妥当と考える。 □地域活動では、社会の変容をきめ細かく観察し、都度考え方を变化させ、柔軟に対応していくことが必要であり重要と考える。 □崇化館地域会議で議論してきた水害対策の協議の中で、「思い込みや前提認識を変えること」、「社会潮流の変化を捉えて変化すること」、「受動的でなく主体的な取組へ行動を変えること」といった点は、安全・安心なまちづくりを進める中で非常に重要な要素であると改めて認識した。 □変化を促すことは非常に労力があるが、この3つの「変える」を意識し、あらゆる立場の者が主体的に考えていくことによって、地域によるまちづくりが奏功すると考える。
	市の考え	ご意見のとおり、変化することは簡単ではなく、チャレンジが必要ですが、持続可能なまちを実現するために、3つの「変える」によってあらゆる立場の人が主体性をもち、ともにまちづくりを進めていくことが重要だと考えており、こうした考えを基に具体的な取組を検討していきます。
3	答申内容	【(仮称) ミライ実現戦略2030の方向性(素案)】 妥当と考える。 □地域住民どうし様々な立場がある中、互いを理解し学び合う理念に共感する。市民全体の暮らしやすさや住み続けたいという思いにつながることはもとより、さらなる豊田市の魅力発掘へつながる大切な考え方だと思う。 □崇化館地域でいろいろな課題を抱える中、住民自身が住んでいる地域に関心を持ち愛着を感じること、また、この地域と未来を担うこどもたちをしっかりとつなぐことが、今後の地域づくりに生きてくると考える。 □また、山村地域等をはじめとする他地域と学び合いの機会が増えれば、より一層住み続けたいまちになると思う。
	市の考え	今後5年間で特に注力する取組の方向性をとりまとめる「(仮称) ミライ実現戦略2030」の検討状況については、あわせて配布させていただいた第9次豊田市総合計画中間案の資料を御参照ください。 ご意見のとおり、本市は多様な地域や歴史文化、芸術、自然等の資源を有しており、様々な「つながり」を通じて多様な価値をつくりだし、市民一人ひとりが愛着や誇りをもって、これらの魅力を次代を担うこどもたちにつないでいくことが大切であると考えています。

4	答申内容	【その他第9次豊田市総合計画に求めることなど】 市民の計画への関心を高めるため、わかりやすい情報発信等に努められたい。 □市民ひとりひとりが当該計画の理解度を高め、関心を持つことで、市民が主体となった様々な活動が充実すると考える。 □一方、諮問時の意見交換の中では、「豊田市が他市に先行して様々な施策を打ち出しているにも関わらず、これらの情報が市民に浸透していないのでは」との意見があった。 □当該計画のように方針や方向性を掲げたものは、抽象的な表現も多く、市民に伝わりづらいものとなりやすい。ついては、まちづくりのいっそうの飛躍のため、当該計画が市民に「届き」、きちんと「伝わる」ように意識して情報発信されたい。 □また、未来を担うこどもたちが当該計画に幼少期からなじめるよう工夫を凝らしてもらいたい。
	市の考え	策定に当たり、地域会議での諮問答申のほか、こども会議や学生・外国人の方との意見交換、子育て世代を中心としたまちづくりミーティングや中間報告会等を開催し、市民の皆様から広くご意見を頂くとともに、計画について知っていただけるよう努めています。 しかし、御指摘のとおり市民の皆様へ情報を届ける・伝えることが不十分であると認識しており、戦略的な情報発信について「(仮称)ミライ実現戦略2030」の施策にも掲げ、積極的な発信に取り組んでいきたいと考えています。 また、計画自体についても、市民の皆様にとって分かりやすい計画とするとともに、手に取りやすい図書となるよう工夫していくほか、動画など様々な媒体を活用しながら、まちづくりの方向性を市民の皆様と共有していく考えです。